

子育て環境日本一を目指すために

いま子育て中の皆さんに聞いてみました。

私の提言

子どもが乳児の時、ベビーカーを押すつらい道がなんと多いことかと思いました。歩道がとにかく狭い。その狭い歩道に電柱が立っていたりするので、すれ違うとき、お先にどうぞ…なんて、譲り合いながらすれ違い、「なんだかとても日本ばいなぁー、でも、それはそれで、いいかしら？」と思ってました。小学校に入学して、毎日二キロの道のりを歩くことになるのですが、学校からの指導でランドセルを背負って、事前に子どもと一緒に通学路を歩きました。普段はあまり気にせず、通り過ぎてしまいう道でも、子どもが六年間雨の日も風の強い日も通うのかと思うと、いろいろな気になることがでてきました。

昔からの通学路は歩道らしい歩道もなく、自転車通学の中学生も同じ道を通ります。もちろん車も…。

子どもたちの安全をともに考え、実践していけるために

して、プロセスと結果を伝えてください。より良い未来と信頼を築くためにも…。(高1、小六の子の母)

下校時、歩道のないう狭い道を、トラックが左折しようとして、ランドセルがトラックに接触し、危ないところを中学生に助けてもらったということもありました。私たち保護者は常に子どもたちの安全を願っています。どうぞ、いろいろな意見に耳を傾けてください。そして、聞くだけでなく、どうしたらより良くなるんだろうと、考えてみてください。そして、プロセスと結果を伝えてください。より良い未来と信頼を築くためにも…。(高1、小六の子の母)

先生に相談しましたが、「通学路を変更することはできない」といわれました。危険だと思ったので相談したのですが、検討することなく断られてしまったことが残念です。



市役所ってどんなことをしてるの

教育総務課

名前からわかるように児童(小学校)生徒(中学校)のことから教職員の指導、学校施設の整備、教育委員会の運営などひとことで言えば小、中学校の教育全般に関わる仕事をしています。今大きな問題となっている体罰やいじめを始め学力低下についてなど「子育て環境日本一」を目指す矢板の実情と対策について大谷課長にお聞きしました。



■いじめ、体罰に関する問題は

今までのところ深刻な案件はありません。体罰についてはすでにアンケート用紙(内容全国一律)を各家庭に配布しており、調査が始まっているところです。いじめの方は、国、県のいじめ防止推進

事業として保護者と地域との連携した取り組みに加え、子どもたち自らがいじめ防止の取り組みをしていくという、より効果を目指したものでやっていくことになっています。

■学力向上についての取り組みは

今年度から年間5日間の範囲で土曜日授業の実施が可能となりました。

また、市の独自の取り組みとして、基礎基本の大切さに基づき、共通テスト(トライアル)の実施と全国学力テストに選ばれたかった学校にも予算を組んで受けてもらっています。

■矢板市の学校教育の特色とは

市の指標の「子供の良さを伸ばし自ら学力を育てる教育の実践」に「ふるさとを愛する心」を今年付け加えました。ふるさと体験学習授業として取り入れています。

また、各学校が特色ある独自の目標を掲げ学校づくりを進めています。そのほか小規模特認校として西小と豊田小を指定しました。西小は矢板高校と共同で自然環境についての調査研究を、豊田小は英

語学習に力を入れる取り組みで、小規模ならではのきめ細やかな指導、仲間づくりが特色です。現在のところ、すでに、保護者と子どもさんが、西小を見学に訪れ、一名の入学が決まりました。緑豊かな自然環境と児童たちの優しさにひかれたようですが、西小の児童も「みんなが仲良くやろうよ、待ってるからね」と歓迎の言葉を贈ったそうです。この制度を利用された家庭にも通学面の負担を考慮して遠距離通学補助がです。

最後に課長のお話を聞いて子ども課との連携により幼稚園、保育園から小学、中学までの繋がりを持った教育指導に力を注いでいること、市の人口減少というなかでふるさと矢板に愛着を持てる子どもたちに育って欲しいということがよく解りました。(R・K)

編集後記

今回、指定廃棄物最終処分場候補地問題のアンケート調査をしてみて、処分場ができたら矢板市を離れると回答し、深刻に受け止めている人も多かったが、反面、これだけ重要な案件なのに、無関心な人や、人任せにしているような人も少なからずいるということを感じた。当事者意識を持ってこの問題を考えるために、一度でも塩田の反対同盟のテントに足を運び、現地の方々の声を聞いてみるのはいかがだろうか。